

請 願 文 書 表

受 理 番 号	請 願 第 1 6 号
件 名	多面的機能支払交付金の予算確保について
紹 介 議 員	水澤 仁, 田辺 新, 金子 孝, 竹内 功
要 旨	<p>私たちは、農業に携わる人たちの高齢化に伴い、農地の環境整備や次世代の若い人たちが、より豊かな生活ができる農村環境づくりが必要と考えています。</p> <p>国はさまざまな施策を行い、農業の活性化や強化、発展の後押しを行っており、その一環として農地・水・環境保全対策から多面的機能支払制度へと移行し、平成 27 年に農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律が整備されました。これにより、農業に携わる人や住民たちの意識も徐々に高まり、地域の活性化につながってきています。</p> <p>しかし、今年度の長寿命化活動に対する市の予算は、前年度の 40%の額（60%カット）と大幅にカットされており、当組織は大変驚き、困惑しています。通常、10%前後の減額でも正常な活動を実行するには大変なことです。各活動組織においても、5年間の区切りで計画を立て、さまざまな活動を地道に行っていますが、急に大幅な予算の減額が行われれば、到底活動を継続することができません。国の今年度の多面的機能支払交付金の予算は、前年に対し 1 億 5,000 万円上乘せし 484 億円と、昨年度より増額となっていますが、新潟市においては大幅な減額でした。</p> <p>また、国が 50%、県と市が 25%の補助率としている中で、市の助成額が下がれば、国は多額の助成が必要ないと判断する可能性もあります。</p> <p>これでは、農地を守り地域の活性化などに力を注いできた人たちのモチベーションが下がり、今まで構築された活動そのものの低下を招くこととなります。</p> <p style="text-align: right;">（裏面につづく）</p>
付 託 年月日 委員会	平成 30 年 12 月 13 日 文教経済常任委員会
受 理	平成 30 年 12 月 3 日 第 4 2 6 号

請願第16号

広域組織の農家の組織員たちは、毎年水路の泥上げや、農道の整備を行い、豊かな農地を一生懸命守っていますが、高齢化や農家離れで次第に守れなくなってきたのが現状です。

このような中で、長寿命化への支援は、農道、水路の保全の柱であり、豊かな農地、環境を守り続けていくための最も重要な助成です。市の財政事情も厳しい中ではありますが、農家の人たちが希望を持って、農地を守る活動に励んでいけるよう、来年度の予算以降については、国の予算どおりの確保を求め、多面的機能支払交付金に係る広域協定に属する活動組織の一員として請願いたします。